

変化に対応するATACの新たな企画 (ATAC15周年記念講演会での主張と決意)

財団法人 大阪科学技術センター ATAC
ATAC運営委員長 梶原 孝生

平成18年10月26日のATAC15周年記念講演会は多数の参加を得て、期待以上の盛会となって参加者に喜んでいただき感謝しています。

その中で、ATAC会長古池進の挨拶と、副会長荒川守正の「ATACの原点とその後」と題する講演を行いました。それらのスピーチのほかに、最後にATAC全員が登壇して、決意表明を行いました。この一連のATAC発言の一部を引用して、ATACの新たな企画として以下のようにまとめました。

21世紀に入って、すべての産業がものすごいスピードで大きく変化しています。特にものづくりは激しい変化と競争の世界です。

例えば造船・鉄鋼など古くからある業界も近年は技術革新によって従来とは全く違う新しい技術と品質でものづくりを行っているので、現在の復活を果たしたのです。

今までなら、一つの技術で、10年～20年は企業の大きな柱として成り立っていましたが、今や、ある日突然、音を立てて崩れ落ち、新たな技術に取って代わる時代です。

これは電機業界など他のものづくり業界も同様で、すべての企業は非常に危機感を持って新しい事業を興そうと必死に新たな投資を行っています。最も大事なものは人材投資であり、時代に即応した人材を育成することです。

これは、大企業から中小企業まで例外はありません。



▲決意表明の様子

中堅・中小企業を支援するATACはこのような時代の趨勢に応じて、最近、新しい人材を加え、変化に即応できる体制を整えてきました。新しい時代に即応した中小企業への転換・改革にATACの人材を利用させていただくためです。

現に、新たな企業や地域のニーズに応じて、中小企業の新事業開発にも数々の実績を挙げつつあります。例えば、沖縄県特産の海藻「もずく」と北海道の製麺技術との共創で新しい麺産業界を沖縄県に興す事業を支援しており、その試作品を15周年記念講演会の参加者に配布しました。

また、愛媛県のみかん皮を製紙に利用する廃棄物リサイクル技術の開発による新たな産業創出の企画も着々と進めています。

これらの新しい企画と共に、個々の中小企業に対する一般のコンサルティングや開発協力も従来以上に充実することを全員で決意したのです。